

登山月報

50周年記念式典・祝賀会を開催	1
国際自然環境フォーラム	4
海外登山隊クロニクルザドキュメントデー	5
連載 Mountain World 第27回	6
平成22年度中高年安全登山指導者講習会	7
JMA	8
寄贈図書	9
編集後記	12

50th Anniversary
JMA

皇太子殿下の行啓を仰ぎ 記念式典・祝賀会を盛大に開催



日山協の創立50周年記念式典・祝賀会が1月15日(土)に東京・芝公園の東京プリンスホテルで行われた。

まず、式典は午前11時から同ホテルのマグノリアホールで開式。尾形常務理事の司会で定刻通りに始まり、主催者を代表して田中文男会長が式辞を述べられた後、来賓を代表して文部科学省大臣官房審議官の藤原誠様から祝辞を頂戴した。

続いて50周年を機に、永年にわたり日本の登山界に御尽力された功労者を表彰して、その功績を称える功労者表彰が行われた。被表彰者は各都道府県山岳連盟(協会)と日山協から推薦された694名に及び、ご芳名は資料に記載して、時間の都合上、名前の奉読は割愛させて頂いた。被表彰者を代表して首藤宏史氏(大分岳連)に表彰状が授与され、首藤氏から

は被表彰者を代表して謝辞が述べられた。

次に平素より日山協の事業運営にご支援・ご協力を頂いている以下の関係各位に感謝状と記念品が贈呈された。ゴールドウイン(株)(欠席)、埼玉県加須市、瀬田工業(有)、谷川岳警備隊、東京新聞出版部『岳人』編集部、富山県南砺市(欠席)、八海醸造(株)、マムートスポーツ・グループ・ジャパン、三井住友海上火災保険(株)、明宏印刷(株)、(株)山と溪谷社。

続いて国際山岳連盟(UIAA)名誉会員之証の授与が行われた。昨年10月、イタリアのボルミオで開催されたUIAA総会にて、アジアで初めての名誉会員として齋藤一男顧問が推挙され、満場一致で承認された。式典ではマイク・モーティマUIAA会長より齋藤顧問に名誉会員之証が手渡された。



マイク・モーティマ UIAA 会長より斎藤顧問への名誉会員之証を授与

次に第1回日本山岳グランプリの顕彰が行われた。日山協では創立50周年を記念して、永年にわたり登山や山岳文化活動などを通じて感動や勇気を与え、顕著な功績を挙げた方に日本山岳グランプリを授与する顕彰制度を設けた。

栄えある第1回目の日本山岳グランプリは、選考の結果、1993年からカラコルム山脈が横たわる、パキスタン北東辺境地域の村々で「ヒマラヤの緑を取り戻そう」運動や学校建設、保健衛生教育などを進めてこられたNPO法人ヒマラヤン・グリーン・クラブに決定（代表して遠藤京子さんが出席）。また、同じく日本山岳グランプリ特別賞には、永年にわたり登山思想史や山岳書誌の研究に励まれ、多くの著書、論文などの執筆活動はもとより、日本山書ノ会、山岳展望ノ会、日本山岳文化学会を創設されるなど、山岳文化の啓発、発展に多大な功績を残された斎藤一男氏に決定した。お二人には田中会長から顕彰楯と副賞の目録が贈呈された。

続いて2011年度海外登山奨励金交付登山隊の紹介があった。2011年度は、カラコルムのウルタルII峰南東ピークにアルパイン・スタイルで挑む「GIRI NPO 法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ遠藤京子さんに日本山岳グランプリを贈賞



田中会長より斎藤一男氏へ日本山岳グランプリ特別賞を贈賞

GIRI BOYS ウルタルII峰登山隊2011」に決定した。以上で記念式典は滞りなく終了した。

記念祝賀会

祝賀会は皇太子殿下の行啓を前提に、着席式の祝宴として準備にかかったため、最後まで座席のやりくりには頭を痛めた。事前申込者は、一般参加者340名、招待者52名、海外招待者19名の合計411名でほぼ満席状態となり、正月休みは座席のやり繰りで悩まされた。結局、常務理事、常任委員の何人かには当日、スタッフとして協力して頂くことにして、テーブルの着席はご遠慮願った。ほんとうに申し訳なかったが、やむを得なかった。

祝賀会場のプロビデンスホールは858㎡（260坪）もある大ホールだが419席分の円卓が36卓も入ると手狭さが感じられた。当日のトラブル対応席は8席。溢れるか？ハラハラしながらもついに幕は上がった。12時からテーブルマスター、来賓・招待者、一般参加者の順に順次入場。参加者の着席が整ったところで、皇太子殿下のご入場となった。11階のロイヤル・スイートからの御先導は東京プリンスホテルの武井久

ご支援・ご協力の各位に感謝状を贈呈



昌総支配人。会場入口からは神崎忠男副会長にバトンが渡され、主賓席までご案内。

皇太子殿下がご着席になられたところで会場内が暗転、オープニング映像が流れる。日山協の創立から50年の歴史を3分間の映像で紹介。

オープニング映像の後、平野直子さんの司会で開宴。まず、主催者を代表して田中会長が挨拶。続いてマイク・モーティマUIAA会長から祝辞を頂戴した。

次に主だった23名のご来賓の方々のお名前を読み上げて紹介した後、鏡開きに入った。マイク・モーティマUIAA会長、李仁禎・UAAA会長、岡崎助一・日体協専務理事、渡邊雄二・国立登山研修所所長、田部井淳子・HAT-J代表、衛藤征士郎最高顧問、齋藤一男顧問、坂口三郎顧問、田中会長に登壇して頂き、『八海山』の2樽が会場の掛け声とともに景気良く鏡が開かれた。乾杯用の八海山がいきわたったところで、乾杯となり、乾杯のご発声は渡邊所長にお願いした。

乾杯の後、食事を召し上がっていただきながら、暫し、歓談となった。正餐はフランス料理のフルコース。モスリムやベジタリアンの方にはベジタリアン料理も用意した。

宴たけなわのアトラクションは、『エーデルワイスカペレwith Maria』によるアルプホルンの演奏が行われた。続いてエーデルワイスカペレの伴奏で『山の唄』(3曲)を合唱し、会場は大いに盛り上がった。

その後、正面スクリーンには日山協が誕生した1960年にネパールのジュガール・ヒマラヤに聳えるビッグ・ホワイト・ピークを目指した全日本山岳連盟



エーデルワイスカペレ with Maria によるアルプホルン演奏

登山隊の記録映画『未踏の氷壁』が上映された。この映画の撮影者は、日本山岳写真協会会長の羽田栄治さんで、当日は主賓席で皇太子殿下に説明していただいた。34分間の映像であったが、殿下も食い入るように観られていた。

この映画の後、皇太子殿下はご退席され、隣室のサンフラワーホールで催されていた羽田栄治写真展『ネパール・ヒマラヤ今昔』一山と人―を羽田さんの説明で見学された。

皇太子殿下がご退席の後、祝賀会場はテーブル間の行き来が自由となり、一気に賑やかな雰囲気となった。ステージ上では、海外のご来賓の方々から田中会長へプレゼントが次々と贈られた。

皇太子殿下のホテル御発の連絡が入ったところで、内藤順造副会長による中締めとなり、万歳三唱で締め括っていただいて、お開きとなった。

(尾形好雄・記)

御 礼

本年1月15日、東京プリンスホテルで開催されました社団法人日本山岳協会の創立50周年記念の式典、祝賀会には内外から420名に及ぶの方々のご出席を頂き、お陰様で盛大に開催する事ができました。ご出席頂きました皆様、関係者の皆様には心から感謝と御礼を申し上げます。

また、ご多忙中にも係わらず、祝賀会には皇太子殿下の行啓を賜り、長時間にわたりご歓談頂きました。これは私共にとって歴史に残る慶事であると同時に、一競技団体の創立50周年記念祝賀会にご光臨を賜ったという事は、永久に忘れ難い感激として深く心に刻まさせて頂きました。

後日、東宮御所に行啓御礼のご挨拶に参上させて頂いた折、

「先日の祝賀会では大変楽しいひとときを過ごさせて頂き、ありがとうございました。お心遣いに心から感謝申し上げます。日本山岳協会の今後一層のご発展をお祈り申し上げます」というメッセージを賜りました。このお言葉を励みとして、日本山岳協会は登山界発展のために、なお一層の努力をさせていただきます。本来であればご出席頂きました皆様方おひとり、おひとりにご挨拶申し上げるべきですが、誌上を借りて御礼とご報告をさせていただきます。今後ともご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げますと共に、更に皆様のご期待に添えるよう努力させていただきます。ありがとうございました。

社団法人 日本山岳協会 会長 田中 文男

2011年1月14日、国立オリンピック記念青少年総合センターで「国際自然環境フォーラム」が日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストとの共催で行われ、次代を担う子供たちに焦点をあて、「自然と子供たち」のテーマに、山岳自然と環境教育について、講演が行われた。

講演では、田中会長とマイク・モーティマUIAA会長の挨拶のあと、リンダ・マクミラン(UIAA自然保護委員長)、アン・アラン(UIAA青少年委員長)、小澤紀美子(学芸大学名誉教授)の3氏から、環境活動と子ども教育について、欧米と日本の事情が発表され、約70名の参加者が熱心に耳を傾けた。以下に講演概要を述べる。

尚、講演の詳細についてはホームページをご覧ください。

リンダ・マクミラン氏

米国出身ということで米国山岳会の状況に加え、UIAAの自然保護活動について紹介した。

米国山岳会の状況説明では、国際NGO山岳協会(TMI)と10年の山岳環境保全プロジェクトを協働で取り組んで、米国や世界の山の問題(樹木伐採、草原の後退、気候変化、牧畜の過密化など)に取り組んでいるとし、協働型の取り組みの重要性を示した。このほか、クライマー山岳保全部隊、コーヒーの無料サービス・キャンペーンなどユニークな活動もっており、着実な効果について説明した。

UIAAの特筆する活動として、環境ラベル制度、市民科学者プロジェクトを紹介した。前者は山小屋やツアー業者などを認証することで山岳環境における登山者、ツーリスト、トレッカーなどが山岳自然へのインパクトを出来るだけ少なくしようとするものとした。後者は限られた人しか行けない場所を調べたり科学的なデータを集めたりすることが登山者なら出来る大きな貢献であるとした。

アン・アラン氏

スロベニアで実施している子供たちの年齢に応じて段階的登山教育を紹介した。この登山教育の最終段階では、登山計画やその問題点を抽出し、調べ、解を見いだすという高度レベルに到達させるという。また、国連環境計画で行った「TUNZA世界子ども環境絵画展」など若者達が大きな活動やキャンペー

ンができるし、UIAAもそれらに絡んで行く所存であるとした。

UIAAの青少年事業として、2010年には10件のイベントを各28カ国の参加で行ってきた。2011年には12件のイベントを計画しているとし、特にネパールで開催予定のイベントでは、十代の若者にとって大きな文化的な初めてのプロジェクトとなることからUIAAへの協力を訴えた。青少年活動はある意味で一般のスポーツと重なるところがあり、子供たちへ基礎のコーチ、刺激、情報伝達を行うから、研修などの機会にトップ・クライマーなどスペシャリストとの連携作業が求められるとした。

小澤紀美子氏

今の子供たちを捉えて考える時に、環境破壊というより「関係破壊」に問題があるとし、感性に豊かさを欠いた子供が増え、子供の感性に絶滅が危惧されると前置きし、子供のころからの自然の中でのいろいろな体験こそが感性の醸成に大きく役割を果たすと説いた。教育の英語表現のeducationは「(可能性)を外へ引き出す」ことであるから、環境教育や環境学習というものは、環境問題を知識として学ぶことだけではなく、人と人、人と自然、人と文化や歴史、人と地域、或いは地球と人、などのそれぞれの関係を再構築することこそが環境教育であるとし、どのようなスキルや能力を身に付けていくかということを考えて行かなければならないとした。また、体験学習は子供が大人の生き方に学ぶ機会となるものであるから、サポートする大人は真摯な態度で接するべきで、そのことで子供たちがやってみたいと思うようになるとし、日本での実例を幾つか紹介した。

このフォーラムに先立って14日午前中、神宮前小学校を訪問し、日本の教育現場を視察、学校関係者や児童の皆さんと交流を行った。(自然保護委員会)

フォーラムを熱心に聴講する参加者



50th Anniversary 海外登山隊クロニクル・トークショー JMA The Document Day

2011年1月16日(日)10:00～21:00 毎日ホール(毎日新聞社地下1階)にて、日本山岳協会創立50周年記念事業の一環として、また日本人として世界最高峰エベレスト(8848m)に初登頂した日本山岳協会エベレスト登山隊1970の40周年を記念して、(株)日本山岳協会国際委員会と(株)日本山岳協会海外委員会との共催による「The Document Day」が、「海外登山隊クロニクル・トークショー」の最後の行事として開催された。

朝10時から夜9時まで7本立ての登山隊記録映画が上映される長時間開催だったが、自分が見たいフィルムの上映時間に合わせての来場という案内で実施されたが、平均100人ぐらいの観客数だったが入れ替わりの延べ出席者数は約250人と会場は満席に近い盛況のうちに無事終了することができた。

上映フィルムは、10時のオープニングは日本人ではじめて北極点に到達した

「日大隊・北極点に立つ」(1978年)の記録フィルムにはじまり、8,000m峰初登頂「マナスルに立つ」(1956年)、日本人初のヒマラヤ登山隊「ナンダコット登山隊」(1936年)立教大隊の記録、「初登頂ラ

トックI峰」(1979年)、「エベレストへの道」(1970年)日本人初のエベレスト登山隊の記録、更にエベレスト世界初登頂「英国・エベレスト登山隊1953」の記録フィルム。

最後の上映は「未踏の氷壁・ビック・ホワイト・ピーク」(1960年)登山隊の記録映画で撮影を担当した羽田栄治氏の解説つきと、過去における日本のビック・エックスペディションの記録フィルムを一挙に上映。

「登るよりくたびれました」と帰り際の観客者の楽しそうな一言に、主催者としても納得のいく微笑みのなかに終了した。(神崎忠男・記)



挨拶される神崎副会長

社団法人 日本山岳協会創立 50 周年おめでとうございます。

弊社では貴会の創立 50 周年を記念しましてパルスオキシメータ(経皮的動脈血酸素飽和度計)“パルスフィット BO-600”を格安の値段で提供させて頂いております。

ご希望の方は、最寄りの郵便局から下記の郵便振替でお申込み下さい。入金を確認され次第、品物をお送りします。

【郵便振替】

口座記号・番号：00110-5-546693

加入者名：社団法人日本山岳協会

2万円!ポッキリ



田中産業株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-16-3 電話：03-3814-7181

第26回 Mountain World

ガッシャブルムⅡ峰冬季初登頂

池田常道

昨年12月号でお知らせしたように、冬季未踏で残されていたパキスタンの8000m峰5座を目指して今季は5つのチームが殺到したが、そのうちガッシャブルムⅡ峰(8035m)に向かったトリオから勝利の報告がもたらされた。2009年2月マカルー(8463m)に冬季初登頂したシモーネ・モーロ(イタリア)、デニス・ウルブコ(カザフ)の強力ペアにアメリカからコートニー(コリー)・リチャーズが加わったもので、2月2日、BCを出てから3日目に頂上に立ったもの。

1月初め、ヘリコプターでBC(5100m)に入った3人は、南ガッシャブルム氷河の5900mにC1を置いてルートを開き、南西稜6500mにC2を設けた。強風が弱まる機会を狙い、まだ天候の落ち着かない1月30日にBCを発ってC1に1泊、31日C2に上がった。この夜、気温はマイナス46℃まで下がったが、風速は15m程度だったという。翌日には最終キャンプC3を6900m地点に設営した。

頂上攻撃は標高差1100mを超える長丁場となるので、翌朝は午前3時に出発。頂上ピラミッド下の長いトラバースを経て南東稜の7850mに進出、11時30分頂上に達した。この日はC3に帰って泊まったものの、翌日から天候は荒れ模様となり、ルート下部で雪崩を浴びるなどしたため疲労がはなはだしくC1でストップ、4日にBCまで帰った。BCスタッフのハサンとサイド・ジャンは、深い雪をラッセして途中まで3人を出迎えた。

BC入りしてからわずか22日目の成功は、マカルーのときと同様、わずかなチャンスを逃さなかった行動力の結果である。その裏付けは、オーストリアのカール・ガプルから刻々送られてきた気象通報にあった。さらに、8000m峰の経験と言えば、昨年春にローツェ(8516m)に酸素を使って登っただけのリチャーズが、経験豊富なふたりに遅れることなく行動できた頑張りも指摘しておきたい。

2005年にシシャパンマ、09年にマカルーに登ったモーロは、これで3つ目の8000m峰冬季初登頂に成功した。これは、クシストフ・ヴィエリツキ(80



(上) GⅡ頂上に立つ(左から)リチャーズ、モーロ、ウルブコ。
(下) 登頂ルートと最終キャンプ(C3、6900m)の位置

デニス・ウルブコ提供

年エヴェレスト、86年カンチェンジュンガ、88年ローツェ)や故イェジ・ククチカ(86年カンチェンジュンガ、85年ダウラギリ、87年アンナプルナ)ら伝説的ポーランドの冬季ヒマラヤ・クライマーに肩を並べる数字である。

*

このほか、ガッシャブルムⅠ峰(8068m)に挑んでいるゲアフリート・ゲシュル(オーストリア)、レイ・ルソー(カナダ)、アレックス・チコン(スペイン)はヘリを使わず、8日間のキャラバンをして同じBCに入った。前年秋にデポしておいた物資の一部がなくなっているのが露見したが、登攀を継続している。

ブロード・ピーク(8047m)とK2(8611m)の許可を持っているポーランド隊(アルトゥル・ハイゼル隊長)は前者のC3まで進んでいるが、1名が急性高山病にかかり救出された。

また、ナンガ・パルバット(8126m)に挑んだ2チーム(ロシア人単独とポーランドの若手ペア)は、いずれも早期に断念した。

中高年安全登山指導者講習会（東部地区）を終えて



内藤日山協副会長の開会挨拶

今年度の「中高年安全登山指導者講習会（東部地区）」は、10月8日～10日にかけ中高年登山指導者の養成と安全登山の普及を目的に、富士北麓の人材開発センター富士研修所を会場に開催された。

この時期、本来ならば秋晴れの空の下、富士山を見上げながらの3日間の講習のはずであったが、残念ながら生憎の空模様となり、9日の実技は秋雨の中で行う事となった。そのため、急きょ三ツ峠山頂の四季楽園クライミング場を借り切りロープワークなどを行ったが、現場での指導が十分行き届かず宿舎に戻ってから補習を行う班もあった。今回の研修テーマは緊急時の対応であったが、想定外の雨に運営側自身が緊急の対応を迫られ、十分な対応が出来なかったことが非常に残念であった。しかし、研修終了後に多くの参加者から運営や研修内容について慰労や感謝の言葉をいただき、運営側としても苦勞が報われ安堵した。

研修では、昨年のトムラウシの大量遭難を教訓にしたツアー登山の問題点や低体温症の危険性などに

ついて西内、堀井両氏の講義が行われ、参加者は熱心に聞き入っていた。その中で、西内氏はリスク管理の大切さについて、なかでもリスク回避のための体力向上の必要性について述べられていた。また、堀井先生は低体温症の症状や対処の仕方について詳しく説明され、その対応について参加者からの質問に丁寧に答えていただいた。

山梨からも八ヶ岳青年小屋の竹内ガイドが山小屋の視点から、甲府気象台の河野予報官が気象遭難について、日山協の内藤副会長が中高年全般にわたる問題点についてそれぞれ講義を行った。短時間に盛り沢山の内容を盛り込んだため、全体を通して過密な日程となった。

実技では、講義にトムラウシの遭難を取り上げたことから、講習内容に一貫性を持たせるためビパークを取り入れた研修も提案されたが、参加者の状況などを考えると医師等の手配も必要と考え、縦走路における危機回避を主眼にしたロープワーク、緊急搬送、ツェルトの活用を講習メニューとした。しかし、参加者の技術レベルの幅が大きいことから、習熟者にとってこの設定では不完全燃焼感も否めなかったのではないかと感じている。

今後は、習熟度別の実技班編成、講義内容と実技項目の統一、毎年変わらぬ一貫した講習内容などについて検討することも必要ではないか。そのため、講師の選定については主任講師に日山協派遣の指導員を当てることも一考かと思う。

さて、本研修会は昨年度まで登山研修所と都道府県教委が実施主体となり全国3ブロックで開催されていた。しかし、今年度から登山研修所から事業を受託した日山協が中心となり、東西2ブロックに分



雨のため急遽屋内で行われた簡易ハーネス作成講習



雨の中すぐに役立つツェルトの使用法の講習



3つに分かれた分科会での真剣な討議

け各岳連が実施主体となり運営することとなった。山梨では、北海道から三重県までの24都道県を対象に30～40名程度の参加者を予定していたが、最終的に北海道から沖縄県まで、県外からは44名の

50th Anniversary



平成22年度1月(23年1月)
常務理事会議事録

日時 平成22年1月6日(木)
17:30～21:00
場所 岸記念体育会館103会議室
出席者 田中会長、内藤副会長、粟飯原副会長、神崎副会長、本木副会長、西内、仙石、佐藤、高山、堀井、青木、尾形、北山、相良、谷口、寺内、永井、長谷川各常務理事
委任 寺内、谷口常務理事
(18名中16名出席)

1. 専門委員会動静

12月常務理事会以降
(12月3日～1月5日)

【報告】

(1)指導委員会

12月6日(月) 出席者12名

ア 11月の議事録確認

イ 登攀技術研修会の報告

ウ 12月常務理事会報告

エ 事務処理

・ 広島岳連の件

・ 山口岳連の件

・ 日体協入力システムについて

・ 平成23年度講師養成研修会(アルペン)実施の方向で回答

・ 近畿地区でのSC指導員養成講習会開催について

オ 指導要項の改訂について(概要説明)

カ 氷雪技術研修会・主任検定員

養成講習会について

・ 八ヶ岳、3/19～21:研修会のみ

・ 富士山、3/19～21:研修会・主任検定員

・ 大山、2月

キ 常任委員研修会

・ 八ヶ岳、1/22～23

ク 広島岳連の指導者認定について

ケ 義務研修登録用紙の書式について

コ 神奈川岳連尾山氏の質問について

サ ハイキングインストラクター(山本案)の検討

(2)国際委員会

12月14日(木) 出席者7名

ア 海外登山技術研究会について

・ 資料作成

・ 役割分担

イ 50周年記念事業「The Document Day」について

ウ 2011年海外登山奨励金交付隊について

(3)普及委員会

12月15日(木) 出席者6名

ア 平成23年度中高年安全登山指導者講習会内容について

イ 平成23年度ジュニア・普及委員会予算について

ウ ジュニア・普及情報交換会(2

参加者があり非常に盛会となった。

しかし、準備段階での講習内容の決定や講師の選定、指導員や会場の確保などの事前準備、また報告書の作成や会計処理などの事後処理などを含めると、事業としては当初想定していたものよりかなり大がかりなものとなった。来年度以降の開催県については、今年度開催地の広島や山梨の状況を参考に、より良い講習会にしていきたいと思います。

終わりに、最後まで研修に参加いただいた登山研修所の渡邊所長さん、高嶋さん、貴重な時間を割き講演や助言をいただいた講師の皆様、誠にありがとうございました。また、先催地として資料提供頂いた長野山協の大西さん、事務局の尾形さんいろいろありがとうございました。(小宮山・記)

【50周年記念募金協力者ご芳名】

(2月1日現在)

2口：瀬川幸三、齋藤善也、四戸義継
総額：993口・496万5千円

／19)について

(4)広報委員会

12月15日(木) 出席者6名

ア 『登山月報』1月号(502号)の編集内容について

・ 田中会長年頭挨拶

・ 第1回全国高校生クライミング選手権大会報告

・ 自然保護指導員研修会報告

・ 中高年安全登山指導者講習会(東部地区)報告

(5)遭難対策委員会

12月15日(木) 出席者6名

ア 積雪期レスキュー講習会の講師、スタッフの決定

イ 平成23年度事業計画案について

ウ 指導委員会との話し合いについて

(6)競技委員会

12月16日(木) 出席者14名

ア 12月常務理事会報告

イ 第1回ブラインドクライミング選手権(12/4～5)の報告

ウ 第1回全国高校生クライミング選手権大会の進捗状況について

エ 2011ワールドカップ印西の進捗状況について
 オ ボルダリング・ジャパンカップ(2/26~27)の進捗状況について
 カ アイスクライミング・ワールドカップについて
 ・韓国慶尚北道 1/7~9
 キ 山岳スキー世界選手権について
 ・イタリア・クラウト 2/11~19
 ク 第7回山岳スキー日本選手権大会について
 ・長野・桐池高原 4/9~10
 ケ 国体後催県の準備状況について
 ・岐阜(H24):実施要項(案)、競技日程(案)の確認依頼
 ・長崎(H26):正規視察(12/15~16、北山)
 ・愛媛(H29):正規視察をH24に実施
 コ 東京国体(H25)からの監督に対する日体協指導員資格の保有義務づけに対しての資格取得方法について
 サ トレイルラン小委員会の進捗状況
 シ ブロック研修会講師派遣について
 ス 宮城県特別研修会(2/11~12)について
 セ 山口国体の審判長、副審判長の選出について
 ソ 岐阜国体競技日程(案)について
 タ 後催県の国体リード壁の施設変更について
 (7)選手強化委員会
 12月17日(金) 出席者6名
 ア 2011年代表選手の決定について
 イ 世界選手権のメンバーについて
 ウ 派遣大会以外の大会(WCなど)の取りまとめについて

エ ヨーロッパ在住監督の待遇について
 (8)自然保護委員会
 12月21日(火) 出席者16名
 ア 第1回自然保護委員研修会の報告
 11/26、国立オリンピック記念青少年総合センター 参加者66名
 イ 50周年記念事業・国際自然環境会議東京2011について
 ・1/14 海外ゲストの渋谷神宮前小学校往訪の件
 ・1/14 講演会「子供たちの環境教育」の件
 ・1/15 記念式典受付サポートの件
 ウ 野生鳥獣目撃レポートについて
 ・HPへのアクセス=累計5,356件、レポート=累計301件
 エ 山岳トイレの取組みについて
 ・山はみんなの宝 全国大会(11/30、日本青年館)
 ・「元気な日本復活特別枠」政策判定評価会議の結果について
 オ 山岳団体自然環境連絡会
 ・12/16開催、「デナリのトイレ事情など」
 カ 「森を走ろう:アスレティックアウトドアスポーツの現状と課題」フォーラムの件
 12/26(日)、立正大学

2. その他の重要事項

(12月3日~1月5日)

〔報告〕

(1)2011ワールドカップ印西大会の印西市長表敬
 12月3日(金)
 於:印西市役所
 IFSC会長、田中会長、北山、高山常務理事
 (2)日本勤労者山岳連盟望年会

12月3日(金)
 於:アルカディア市ヶ谷
 田中会長
 (3)50周年記念事業・第1回ブラインドクライミング選手権
 12月4日(土)~5日(日)
 於:習志野市東部体育館
 本木副会長、高山、北山常務理事
 (4)近畿地区山岳連盟総合会議
 12月4日(土)~5日(日)
 於:比良山岳センター
 内藤、栗飯原副会長
 (5)50周年記念事業・海外登山クロニクル・トークショー「The Himalayan Day」
 12月5日(日)
 於:国立オリンピック記念青少年総合センター
 神崎副会長、青木常務理事
 (6)中華民国山岳協会創立85周年記念式典・祝賀会
 12月5日(日)
 於:中華民国・台北 田中会長
 (7)「山の日」制定協議会
 12月9日(木)
 於:JAC
 本木副会長、尾形常務理事
 (8)日本ヒマラヤ協会華甲望年会
 12月11日(土)
 於:主婦会館プラザエフ
 (9)IFSC年次委員会
 12月11日(土)~12日(日)
 於:ウクライナ・キエフ
 小日向常任委員
 (10)第1回日本山岳グランプリ選考委員会
 12月13日(月)
 於:岸記念体育会館
 内藤副会長他
 (11)2010毎日スポーツ人賞表彰式
 12月14日(火)
 於:東京プリンスホテル
 尾形常務理事
 (12)長崎国体正規視察及びBJC会

寄贈図書

● 雑 誌 ●

東京新聞出版部 岳人 2月号
 山と溪谷社 山と溪谷 2月号

● 会 報 ●

朝日本歩クラブ

福岡山の会
 健康・体力づくり事業団
 日本オリンピックズ協会
 (株)日本スポーツ振興センター
 大韓山岳連盟
 富山コンベンションセンター
 (株)日本ゲートボール連合
 (株)日本武術太極拳連盟
 日本体育協会

茨城県山岳連盟
 全日本ボウリング協会
 日本勤労者山岳連盟
 (株)国土緑化推進機構
 新潟県山岳協会
 (株)日本パワーレスリング協会
 (株)日本山岳会
 東京野歩路会
 NPO 山のECHO

朝前橋観光コンベンション協会
 日本山岳写真協会
 愛知県山岳連盟
 新ハイキング
 (財)国立公園協会
 (株)日本山岳会 自然保護委員会
 (株)労働ジャーナル

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、
年間遭難者数は約2,000人です。

■平成20年 山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日)

発生件数 **1,631** 件

遭難者数 **1,933** 人

死者・行方不明者 **281** 人

詳しくは → www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

場視察

12月15日(水)～16日(木)

於：長崎県大村町

北山常務理事

(13)臨時常務理事会

12月21日(火)

於：岸記念体育会館

田中会長他常務理事8名

(14)50周年記念事業・第1回全国高校生クライミング選手権大会

12月25日(土)～26日(日)

於：埼玉県加須市民体育館

田中会長、高山、北山、谷口常務理事

(15)50周年記念祝賀会打合せ

12月28日(火)

於：東宮御所

田中会長、内藤、神崎副会長、尾形常務理事

(16)50周年記念祝賀会・会場下見打合せ

1月4日(火)

於：東京プリンスホテル

田中会長、内藤、神崎、本木副会長、尾形常務理事

3. 議事

(1)平成22年度12月常務理事会議事録の承認について（一部訂正で承認）

(2)50周年記念式典・祝賀会について（別紙運営案について承認）

(3)財自然公園財団の理事について（本木総子副会長を推薦する事を承認）

(4)第6回日本スポーツグランプリ候補者の推薦について（3月常務理事会の前まで候補者が居れば受け付ける事で承認）

(5)第5回山岳スキー競技世界選手権大会日本代表選手団の派遣に

ついて（別紙8名の派遣を承認）

(6)報告事項

ア 会計月次報告

イ 50周年記念功労者表彰について（最終的に694名の表彰者となる）

ウ 近畿地区山岳連盟総会議報告

エ 50周年記念事業について

オ 日体協・JOC功労者等表彰候補の推薦について（会長預かりとし、2月常務理事会へ提案）

カ 第1回日本山岳グランプリ受賞者について（グランプリ：NPO法人ヒマラヤン・グリーン・クラブ、グランプリ特別賞：齋藤一男氏に決定）

キ 平成23年度海外登山奨励金交付登山隊について（GIRI GIRI BOYSウルタルII峰登山隊2011に決定）

ク 第69回（長崎）国体第1次正規視察報告

ケ ウィンター・クライマーズ・ミートの支援について

4. 役員等の派遣について

(1)50周年式典・祝賀会打合せ

1月4日(火)

於：東京プリンスホテル

田中会長、内藤、神崎、本木副会長、尾形常務理事

(2)50周年式典・祝賀会受付準備会

1月7日(金) 於：JACルーム

神崎、本木副会長、長谷川、堀井、永井、尾形常務理事他

(3)アマチュアスポーツ新春懇談会

1月12日(水) 於：NHK

田中会長

(4)第60回日本スポーツ賞授賞式

1月14日(金)

於：ホテル オークラ東京 「平安の間」

青木常務理事

(5)第25回ユニバーシアード冬季競技大会日本代表選手団結団式

1月20日(木)

於：品川プリンスホテル

メインタワー「箱根」

尾形常務理事

(6)第7回アジア冬季競技大会 日本代表選手団結団式

1月24日(月)

於：グランドプリンスホテル新高輪「天平」

尾形常務理事

(7)消防防災ヘリによる山岳救助のあり方に関する検討会

1月25日(火)

於：経済産業省

恵常任委員

(8)レスキュー講習会（積雪期）

1月28日(土)～30日(日)

於：国立登山研修所

西内常務理事

(9)関東ブロック研修会

1月29日(土)～30日(日)

於：茨城 高山、永井常務理事

(10)第49回海外登山技術研究会

1月30日(日)

於：国立オリンピック青少年総合センター

田中会長、青木常務理事

(11)中高年安全登山指導者講習会連絡会議

1月31日(月)

於：岸記念体育会館

内藤副会長、本木副会長、西内、仙石、尾形常務理事

5. 後援、協賛等の依頼について

(1)一歩を踏み出す～こんな日本人がいた そして 今もいる～

HANDY GPS RECEIVER & LOGGER **ATLAS** ASG-2 販売価格 12,600円(税込)

GPSでアウトドアをもっと楽しく!

最大5箇所の目的地(経由地)が登録可能。

事前に休憩場所や寄り道先の

ポイント設定に活用!

- 位置情報と移動情報を表示・記録 (リアルな数値情報とログ機能搭載)

株式会社 ユピテル 〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33

お問い合わせ先: アトラス事業部 山下まで TEL 03-3769-1190

<https://atlas.yupiteru.co.jp>

※ご購入は弊社ホームページからアトラスクラブに入会(無料)し、直接購入できます。



ネパールに行くなら、**風**の旅行社にお任せ下さい。

元々はネパールから始まった風の旅行社。ネパールに支店も構えています。専門知識と経験で、皆様をがっちりサポートいたします。



株式会社 風の旅行社

観光庁長官登録旅行業第1382号 日本旅行業協会(GATA) 正会員 総合旅行業務取扱管理者 原/小宮山

〒165-0026 東京都中野区新井2-30-4 1F.0ビル 6F

TEL.0120-987-553 FAX.03-3228-5174

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-25 ハービスPLAZA3F

TEL.0120-987-803 FAX.06-6343-7518

URL <http://www.kaze-travel.co.jp/> e-mail info@kaze-travel.co.jp

第7回山岳スキー競技日本選手権大会 開催要項 兼 第4回山岳スキー競技アジアカップ第2戦

主催: 社団法人 日本山岳協会
後援: 小谷村 小谷村教育委員会 小谷村観光連盟
 榑池高原観光協会 小谷村体育協会
協力: 長野県山岳協会、(株)白馬観光開発 (株)白馬館
 小谷村遭難対策協議会 ほか
日時: 2011年4月9日(土)
 午後 受付、夕方より開会式・交流イベント
 4月10日(日) 午前 競技、午後 表彰式
場所: 長野県北安曇郡小谷村榑池高原から天狗原に
 かけての斜面

競技カテゴリー:

1 国際規格競技

成年(男子・女子) 少年(男子・女子) 個人
 国際山岳スキー競技連盟競技ルールに沿って設定さ
 れたコースで実施
 (女子・少年男女はカテゴリー2と同じショートコース)

2 成年男子ショートコース(市民レースカテゴリー)

成年男子 個人
 カテゴリー1のコースの一部を短縮して、体力に自
 信のない方でも楽しめる形にしたカテゴリー

3 テレマークスキー部門

成年(男子・女子) 少年(男子・女子) 個人
 成年男子はカテゴリー1と同じコースをテレマーク
 スキーで走る。
 成年女子・少年男女は、カテゴリー2と同じショ
 ートコースで実施
 (※少年とは2009年4月1日現在で満19歳以下の選手)

参加条件: カテゴリー1, 2 は山スキー、登り時に踵

が上がり、滑降時に踵を固定するタイプの山岳ツアー
 用スキーとシールを使うことが必須
 カテゴリー3では、山スキーの代わりに テレマー
 クスキーで競技に参加する
 スキー以外の必携用具は全カテゴリー共通
 ヘルメット、雪崩ビーコン、スコップ、プローブな
 どが必携アイテムとなります。必携用具についての
 詳細は大会ホームページをご参照ください。揃わな
 い場合は大会事務局にご相談下さい。また今回、貸
 し出し用山スキーと専用ブーツを数セット用意する
 予定です。希望者は申し込み時に、別途事務局に申
 し出してください。(但し数に限りがありますので先着
 順とします)

参加資格: 日本山岳協会に2010年度選手登録してい
 る者(※今大会は2010手登録で行ないます)

※選手登録は参加申込と同時にできますので、登録
 料を参加料と同時に支払ってください。また各都道
 府県山岳連盟・協会に登録をおこなうことも可能で
 す。(その際、登録用紙は日本山岳協会ホームページ
<http://www.jma-sangaku.or.jp/> からダウンロードで
 きます)

参加費: 全カテゴリー共通 10,000円
 (選手登録費(2000円)大会当日ゴンドラ代金を含む)

2011年4月1日現在で18歳未満の方は 5,000円
 (※すでに日山協選手登録をされている方はマイナス
 2,000円で8,000円
 18歳未満の方は-1,000円で4,000円となります)

植村直己顕彰事業 2011「日
 本冒険フォーラム」の後援名義
 (承認)

(2)第11回全日本山岳スキー競技
 大会兼第31回秋田県山岳ス
 キー競技大会の後援名義(承認)

6. 報告

(1)自然保護指導員の承認

富山 2名(承認)

(2)指導員の認定承認

①上級指導員

なし

②指導員

なし

③主任検定員

なし

7. 通知、依頼、連絡、案内等 別紙の通り

編集後記

日曜の昼下がり、敬遠していた高
 尾山へ久しぶりに登った。稲荷山尾
 根は、冬の木漏れ日心地良く、出
 会うハイカーと挨拶を交わしつつ快
 適に山頂へ。ところが、神社への下
 山道は噂通り街中のような混雑。子
 ども連れも多く微笑ましいが、半数
 は街歩きの出立ちだ。この人々に、
 安全登山を伝える方法は如何に？

(広報 本木 總子記)

8. 連絡事項

①平成23年2月常務理事会
 2月3日(木)17:30
 (岸記念体育会館103会議室)

登山月報 第503号

定価 100円(送料別)

予約年間 1,200円送料共

昭和45年12月12日

第三種郵便物認可

(毎月1回15日発行)

発行日 平成23年2月15日

発行者 東京都渋谷区神南1の1

岸記念体育会館内

社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396

FAX 03-3481-2395